

令和元年度 第1回安曇野市博物館協議会 会議概要

- 1 会議名 令和元年度 第1回安曇野市博物館協議会
- 2 日時 令和元年5月14日 午前10時から午後0時20分まで
- 3 会場 安曇野市役所本庁舎 3階 会議室 305
- 4 委員出席者 笹本会長、百瀬副会長、春日委員、古根委員、齋藤委員、小河委員、金井委員、高原委員、細野委員、須之部委員
- 6 事務局出席者 橋渡教育長、那須野文化課長、豊科郷土博物館兼穂高郷土資料館原館長、豊科近代美術館兼飯沼飛行士記念館荒深館長、田淵行男記念館曾根原館長、穂高陶芸会館小倉館長、高橋節郎記念美術館黒岩館長、貞享義民記念館清水館長、臼井吉見文学館平沢館長、財津博物館係長、逸見博物館係主査、倉石博物館係係員、松田博物館係係員、三澤文化振興担当係長、諏訪文化振興担当主査、堀文化振興担当係員
- 7 公開・非公開の別 公開
- 8 傍聴人 2人 記者 1人
- 9 会議概要作成年月日 令和元年5月24日

協 議 事 項 等

○会議の概要

1 開 会 那須野文化課長

2 あいさつ 橋渡教育長

- ・昨年度に文書館がオープンした。
- ・今年度から臼井吉見文学館が市直営となり、文書館との一体管理となった。
- ・今年度から高橋節郎記念美術館に指定管理者制度を導入し、安曇野文化財団による運営となった。これにより、市の美術館については、全て安曇野文化財団による運営へ移行した。

3 自己紹介

4 報告・協議

(1) 平成30年度各館事業報告(資料1)

各館館長・担当者より説明

■豊科郷土博物館

- ・三箇年度にわたる企画展の長期計画を作成し、資料調査等に取り組み始めた。
- ・新市立博物館構想の方向が具体的になっていないため、資料収集の方法の検討を進めることができていない。

■豊科近代美術館

- ・主に小中学生向けのワークショップを9回実施し、五感をとおしての体験につなげることができた。
- ・常設展拡大企画「安曇野モダン2」を今年度実施しており、平成30年度に新規収蔵した作品

についても展示し活用している。

- ・平成 30 年度は貸館が多かったため、入館者数が伸びた。

■田淵行男記念館

- ・平成 31 年 1 月 6 日に NHK・E テレ「日曜美術館」で田淵行男特集が放送され、入館者数が増えた。
- ・県外からの来館者は多いが、市内からが少ない。改善の必要あり。

■飯沼飛行士記念館

- ・平成 30 年度から遺族を安曇野文化財団で臨時職員として採用しており、丁寧な対応が好評。総入館者数は、平成 29 年度の 556 人から平成 30 年度は 932 人となっており、前年度比で 168% 増加している。さらに入館者を増やすため、工夫していきたい。
- ・子ども向けの取り組みとして、豊科郷土博物館と連携した講座を、すでに今年度に行っている。

■穂高陶芸会館

- ・作陶体験には多くの人があるが、洗馬焼は馴染みがないようで展示室への入館者数が少ない。

■高橋節郎記念美術館

- ・古民家を利用・見学する人が多い。
- ・入館者数 12,850 人に対して、無料来館者数が 9,052 人と割合が多いため、有料入館者数を増やすための工夫が必要。
- ・そば猪口アート公募展への参加者は若者が多く、また県外からほとんど。市内からの参加者を増やしたい。
- ・これまでにないことを取り込み、新たなこともやっていきたい。

■貞享義民記念館

- ・平成 30 年度に発刊した書籍「貞享騒動をたずねて」の売れ行きが好調。
- ・学校と連携し「貞享義民記念館見学のしおり」を作成した。活用していきたい。

■臼井吉見文学館

- ・同人雑誌『高嶺』を復刻することができた。150 部刊行し、残部はほぼ無くなった。
- ・子ども向けの取り組みとして、友の会で紙芝居を作成しており、夏ごろ完成予定。
- ・市の直営として今年の 4 月から運営してみて、友の会活動が充実していると感じる。会員数も多く、100 名を超えている。これまで大事にしてきたものを引き継いでいきたい。

■穂高郷土資料館

- ・展示内容に特色を出すことはできなかったが、豊科郷土博物館と連携して展示を実施することはできた。

■美術館博物館連携事業

- ・ミュージアムサポーターは、高橋節郎記念美術館で蔵の資料整理を行う等の活動を行った。
- ・スクールプログラムを活用してもらえるように、内容を考えていきたい。

■新市立博物館準備室

- ・出前（コンパクト）展示では、展示セットを希望施設に貸し出している。アンケートで出さ

れた希望テーマを参考に展示セットの内容を考えていきたい。

■会 長 委員の皆さんからは、次につながるような内容の提案をいただきたい

委 員 豊科郷土博物館について、市史編纂は文書館でも行っているが、その棲み分けはどのようにしているのか。

豊科郷土博物館 豊科郷土博物館では主に民俗資料を扱うこととして、文書館で扱う資料と棲み分けている。

委 員 田淵行男記念館の「こども自然観察教室むしの会」の活動が素晴らしい。良い教育の場となっているので、今後も力を入れてほしい。

委 員 田淵行男記念館の展示を、これまで何度も見に行っている。「日本アルプス」や「北の山」、「蝶の細密画」といったテーマで上手に配置されており感動した。

副会長 先日の5月11日に飯沼飛行士記念館で行った子ども向けの講座では、昨年からの継続も含めて三十数名が、各学校からほぼまんべんなく参加した。人数が多く大変そうかなと心配したが、館職員がビデオによる事前学習を行うなどよく準備してくれており、スムーズに行うことができた。このような取り組みは他の館でもできるはずである。

委 員 コンパクト展示はいい形にできている。そのコンパクト展示について、アンケート意見にある「暗くて見づらくなってしまった」とはどういう意味か。

博物館係長 学校施設でのコンパクト展示について、学校の先生からの意見である。学校の他イベントとの調整により廊下での展示となってしまう、照明が届かない場所があった。今後は、こちらからも展示方法のアドバイスをしていくよう心掛けたい。

委 員 収集・保存をどのような観点から行っているのか。また、収集作品をどのように活かしているのか、その成果を教えてください。

文化振興係長 収集資料は、購入の他、所管替え、寄贈も含めて美術資料等選定委員会に諮って決定している。平成30年度は奥村光正や木村辰彦などを収集した。

豊科近代美術館 現在開催中の「安曇野モダン2」展や木村辰彦展で、平成30年度収集作品を展示している。

会 長 古い家の資料はそのまま廃棄されてしまうことが多い。市でそれらをどのように収集・保管するのか考えることは非常に大事である。

委 員 域内での活動は十分に行っているが、域外へ向けた中・長期的な視点も必要である。外国人作家もいるといいのでは。あるいは、松本クラフトフェアや大町市の芸術祭との関わり方をどうするか考えてはどうか。また、国際博物館会議が今年是国内で行われるので、市から出張して状況を確認するとよいのでは。

委 員 高橋節郎記念美術館から、そば猪口アート公募展への市内からの参加者を増やしたい

との話があったが、公募でありレベルが高いため、市内からの応募は難しいのではないかと。市内からの参加者を増やしたいのであれば、地域枠などを設けたほうがよいのでは。

会 長 地域からの参加者のみを対象として賞を出すのもよいかもしれない。レベルが高ければよいとも限らない。地域は大事である。

高橋節郎記念美術館 高橋節郎の作品が自分たちのものであると地域の人たちが思えるような取り組みを行っていききたい。

委 員 穂高郷土資料館に子どもと一緒にいった。館職員の方が丁寧に説明してくれて子どもも喜んでた。ただ、市外からの人は、地名が書かれていてもどこの地域からわからないと思うので、文字だけでなく地図もあるとよいのでは。また、子どもからは土器などに「触ってみたかった」という感想があった。ガラス製のものに触れるコーナーがあったが、親としては割らないか心配だった。

穂高郷土資料館 いただいた意見については検討していききたい。なお、穂高郷土資料館では勾玉作りのワークショップを行うことを検討している。

会 長 地名の問題は重要。外から来た人がどう見るかを常に考える必要がある。地元の人にとっては当たり前知っていることも、外から来た人にはわからない場合がある。

委 員 一度も博物館に行ったことがないという人もいる。堅苦しいイメージがあるのではないかと。花が咲く季節にバスツアーを行ったり、コンサートを開催することで、そういうイメージをなくすことができるのでは。

会 長 バスツアーについては一館だけでは実行できないので、どうするか考える必要がある。地域の方に博物館のことを知ってもらう一つの手として、講演会などを地元ケーブルテレビに取材してもらうという方法もあるのでは。

委 員 自然の中での、子どもとの草花遊び活動を私は行っている。例えば、田淵行男記念館で蝶や青虫の折り紙を作り、写真の山の中にこれらの虫が住んでいることを子どもに伝え、その折り紙を館の思い出と一緒に持ち帰るといったのもいいのでは。折り紙は私が子どもに教えることができる。

会 長 子どもを通して、親を教育することもできる。

委 員

- ・豊科郷土博物館で昔の地図を展示しているのを見て、礫山がどうやって歩いたのかが見えてきておもしろかった。
- ・小学校6年生の地層見学はたいがい信州新町か松本市四賀へ行くが、実は市内の大沢でも化石が出ることを、子どもが知るととてもよいと思う。
- ・ちくに基金について、故千国安之輔氏のことを学校の先生が知らない。たしか教育会の資料でA4にまとめたものがあったと思うので、それを活用するとよいのでは。

会 長 大沢での化石採掘は、場所的に子どもには無理だろう。礫山が歩いた足跡について思いを巡らせられるような、考えさせる展示が博物館では大事である。

委員 国営アルプスあづみの公園にはフィールドがあるので、各館と結びついた活動ができればと思う。例えば、各館のきれいな庭と、国営アルプスあづみの公園のフィールドとが連携ができるとうい。

会長 博物館の自然分野はまだ弱いので、結びつくことで強化できるとよい。各館の庭はよい展示場となるので、在来植物を植えることを考えてもよいのでは。

会長 世界レベルの広い視野でも考えていくことが大事。

那須野文化課長 新市立博物館構想についてどうしていくのかを、次回以降の会議でお聞きしたい。そのため、例年より2回ほど会議回数を増やす予定である。

(2) その他

5 その他

6 閉 会

以上

※会議概要は、原則として公開します。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。